
プロジェクト のれんリサーチ

項目 のれん及び減損に関する定量的な調査

本資料の目的

1. 本資料は、国際会計基準審議会（IASB）の依頼を受け、当委員会事務局が欧州財務報告諮問グループ（EFRAG）事務局と協力して行っているのれん及び減損に関する定量的な調査について、本日の企業会計基準委員会においてご審議いただくことを予定している事項をご説明することを目的としている。

背景

2. IASB は、2015年6月に、IFRS 第3号「企業結合」の適用後レビューに係るフィードバック文書を公表した。同フィードバック文書では、のれん及び減損に関して今後重点的に検討すべき項目として、のれんの事後の会計処理（「減損のみのアプローチ」と「償却及び減損アプローチ」の比較）が識別されている。
3. 2016年2月のIASB ボード会議において、のれん及び減損プロジェクトについて議論が行われた。その際、のれんの事後の会計処理に関連して、現行の会計モデルについて見直しを行う場合、「減損のみのアプローチ」が機能しているか否かがポイントであり、このため、「償却及び減損アプローチ」が適用されていた時と比較して、のれんの残高等がどのように変化したかを含む客観的なデータを収集することが必要であるといった見解が複数の理事から示された。
4. 当委員会事務局は、IASB からの依頼を受け、EFRAG と協力しつつ、のれんの残高の推移等に関する定量的なデータの分析を行っており、2016年5月のIASB ボード会議において経過報告を行う予定である。

本日の議題

5. 本日の委員会では、2016年5月のIASB ボード会議において報告する予定の資料をご説明する予定である。

（配布資料）

- プレゼンテーション資料（5月のIASB ボード会議アジェンダ・ペーパー18B）
「Quantitative Study on Goodwill and Impairment」（審議事項(2)-2 参照）
- プレゼンテーション資料別紙（5月のIASB ボード会議アジェンダ・ペーパー18C）
「Outline of Quantitative Study and Back Data」（審議事項(2)-3 参照）

ディスカッション・ポイント

2016年5月のIASBボード会議において報告する予定の資料について、ご質問やご意見があればいただきたい。

以上